

解説：地震カテゴリー

地震調査研究推進本部による地震動予測地図とその活用のための地震の分類

地震動予測地図を活用する際の利便性のため、確率論的地震動予測地図では、多種多数の地震が以下の3つのカテゴリーに分類されている。各カテゴリーに対する揺れの確率や影響度の地図を見ることにより、各地域に大きな影響を及ぼす地震の特徴に応じた備えも可能となる。

確率論的地震動予測地図 2018年版の地震カテゴリー

カテゴリー I
海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震（平均活動間隔が数十年から数百年程度）
<ul style="list-style-type: none">・十勝沖のプレート間巨大地震・根室沖のプレート間巨大地震・千島海溝沿いの超巨大地震（17世紀型）・東北地方太平洋沖型の地震・三陸沖北部のプレート間地震・相模トラフ沿いの M8 クラスの地震・南海トラフの地震
カテゴリー II
海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震（平均活動間隔が数十年から数百年程度）
<ul style="list-style-type: none">・十勝沖から択捉島沖にかけての海溝寄りのプレート間地震（津波地震等）・三陸沖北部から房総沖の海溝寄りのプレート間地震（津波地震）・三陸沖北部から房総沖の海溝寄りのプレート内地震（正断層型）・日向灘のプレート間地震・日向灘のひとまわり小さいプレート間地震・与那国島周辺の地震・太平洋プレートのプレート間及びプレート内の震源断層を予め特定しにくい地震（色丹島沖及び択捉島沖のプレート間巨大地震を含む）・浦河沖の震源断層を予め特定しにくい地震・フィリピン海プレートのプレート間及びプレート内の震源断層を予め特定しにくい地震
カテゴリー III
活断層など陸域と沿岸海域の浅い地震（平均活動間隔が数千年から数万程度）
<ul style="list-style-type: none">・主要活断層帯で発生する固有地震・関東地域において評価対象とする活断層で発生する地震・中国地域において評価対象とする活断層で発生する地震・四国地域において評価対象とする活断層で発生する地震・九州地域において評価対象とする活断層で発生する地震・その他の活断層で発生する地震・地表の証拠からは活動の痕跡を認めにくい地震・北海道北西沖の地震・北海道西方沖の地震・北海道南西沖の地震・青森県西方沖の地震・秋田県沖の地震・山形県沖の地震・新潟県北部沖の地震・佐渡島北方沖の地震・陸域で発生する地震のうち活断層が特定されていない場所で発生する地震・日本海東縁部の震源断層を予め特定しにくい地震・伊豆諸島以南の震源断層を予め特定しにくい地震・与那国島周辺の震源断層を予め特定しにくい地震

注：地震カテゴリーは、主に確率や影響度の地図（確率論的地震動予測地図）の説明性向上のために工夫され設定されたものであり、強震動の予測方法や震源断層を特定した地震動予測地図の作成方法を選定する際には、この分類に従わない場合もある。例えば、発生間隔が長いと考えられる日本海東縁部の地震は活断層と共にカテゴリー III に分類されている。